



光よ射せ

校訓 自律 友愛 創造

北九州市立南曾根中学校 校長 木村 康晴

キャンプファイヤーで、きずな強く！～1年生ふれあい合宿～



5月19日(火)から一泊二日で、1年生がふれあい合宿に出かけました。場所は若松区の玄海青年の家です。入学後初めての宿泊行事となりましたが、生徒たちはこの体験を通して、仲間や先生方とのきずなを一層深めることができたように感じます。

私は初日の夕方から見学しましたが、まず驚いたのは、生徒たちの元気よさです。施設に到着し食堂を外からのぞいた際、中にいた多くの生徒たちが「校長先生！」と大きな手で手を振ってくれました。その姿に、たいへんうれしい気持ちになりました。キャンプファイヤーを行う学校は近年少なくなっており、私自身もおそらく30年ぶりの体験でした。第一部の迎え火の儀式、第二部のレクリエーション、そして第三部の送り火の儀式と、どの場面でも生徒たちは互いを思いやりながら、楽しく意義ある時間を過ごしていました。ふれあい合宿の体験が今後の学校生活で生かされることを期待しています。



その一冊が、君を変える！ 子ども読書の日の取組

4月20日(月)、子ども読書の日の取組として、読書集会とポップづくりを行いました。読書集会では、本校の学校図書館職員であるK先生による読み聞かせが行われ、生徒たちは物語の世界に引き込まれながら、熱心に耳を傾けていました。また、ポップづくりでは、各自が工夫を凝らした素晴らしい作品が多く見られ、現在も教室前の廊下に掲示されています。本校の強みの一つは、「読書好きの生徒が多いこと」です。読書には、人生を変える力があります。ページをめくるたびに、新たな考え方や価値観に出会い、自分の世界が広がっていきます。これからも、ぜひ読書に親しみ、本を読む楽しさを味わってほしいと思います。あわせて、学校図書館職員のK先生にインタビューを行いました。

校長：この仕事するきっかけは？

K先生：「自分が子どものころ、本がとっても大好きだったんです。子どもに本の楽しさを知ってもらいたくて、この仕事を選びました。」

校長：本を読むことの良さや魅力はどんなところにあると思いますか？

K先生：「本は『心の栄養』だと思っています。もやもやしたり、困ったり、すっきりしない気持ちがあっても、本を読むとすっきりしたり、解決したりすることがあります。心の成長のためにも本の栄養を与えてください。」

校長：生徒のみなさんへのメッセージをお願いします。

K先生：「南曾根中の図書館には、様々な分野の本があります。あなたにぴったりの一冊をぜひ見つけに来てください。」

読書には、人生を変えるほどの大きな力をもっています。ページをめくるたびに可能性は広がります。ぜひ、もっともっと読書に親しんで、本を読む楽しさを追い求めてみましょう。また、ぜひご家庭でも読書に親しむ時間を大切にいただければと思います。保護者の皆様が本を手取る姿や、読んだ本について会話を交わすことは、子どもたちにとって大きな刺激となります。「どんな本を読んでいるの？」「おもしろかったところを教えて」そんな何気ない一言が、子どもたちの読書への興味をさらに広げてくれます。ご家庭と学校が一体となって、子どもたちの豊かな心と言葉の力を育てていきましょう。